

# 尾白川溪谷鞍掛沢



女夫滝釣り



釣り上げた岩魚

期間：令和5年9月25日（月） - 26日（火）

山域：尾白川溪谷鞍掛沢

参加者：河本嘉照（リーダー）、大西純平

コースタイム：

1日目（9月25日）

尾白川駐車場（06:40）→駒ヶ岳神社（06:45）→不動滝（08:30）→林道終点手前からの入溪地点（10:25）→鞍掛沢出合（14:50）→幕営地（15:15）

2日目（9月26日）

幕営地（06:50）→乗越沢出合（09:20）→駒岩（12:00）→日向山（13:30）→矢立石駐車場（14:20:）→尾白川駐車場（15:00）

当初の計画では、1泊2日で尾白川渓谷駐車場から本谷を詰め、甲斐駒ヶ岳を踏んで、黒戸尾根で下山する予定だったが、リーダーの河本会員が前日まで2泊3日で北岳バットレスピラミッドフェースの山行を敢行していたので、無理をせず比較的短いルートを取るようになった。つまり本谷を詰めるのではなく、最初の出合である鞍掛沢に進路を取り、乗越沢を詰めて、日向八兆尾根ルートで下山することとなった。

尾白川渓谷と言えば、南アルプス天然水で有名な場所。渓谷の水はバスクリーンを入れたようなエメラルドグリーン。尾白川駐車場から不動滝上部までは、人を寄せ付けないような深いゴルジュ帯となっており、巨大な滝を登攀するには余程の覚悟と沢登の技術が必要になってくる。今回の溪流山行は、日本古来のテンカラ釣りで岩魚を釣り上げることが目的であったので、できるだけハードな滝は高巻いて時間をロスしないように考えていた。



不動滝



林道終点点前入渓地点の滝

尾白川駐車場からは、渓谷沿いの尾根道を使い不動滝まで抜け、そこからは廃道になった道を使って、林道まで上り詰めた。林道の3つ目のトンネルをくぐった後から、地形的にゴルジュ帯が無くなって、山の斜度が緩くなっているようだったので、そこを下って入渓することにした。しかし、入渓した場所が高さ20メートル位の滝の真下に出てしまい、登攀は無理と判断、その滝を高巻いて再度入渓した。駐車場を出発してから、約3時間45分かかったことになる。

それぞれ溪流釣りの格好に着替え、いざテンカラ釣りのスタート。テンカラ釣りとは、折り畳み可能な約3.3メートルの竿にラインが約4メートル。その先に毛鉤を付けただけのシンプルな釣りのスタイルだ。沢の流れに毛鉤を流し、あたかも虫が流されているように見せかけて、

魚を釣る。当日は、何人か先行者がいたようで、魚は見えるのだがすれていて、なかなか食らいついてこない。それでも5時間くらい釣りあがって2人で6匹の岩魚を得ることができた。ところどころ滝を溯上したが、どれもロープなしで登れる滝がほとんど。唯一。女夫（めおと）滝でロープを出した。開始点と終了点にハーケンが残置してある。途中クラックがあるので、そこにハーケンを打って上部まで上がった。

尾白川溪谷の岩盤は、そのほとんどが花崗岩で形成されており、沢用のラバーソールとの相性が良く、グリップが効いて安心して登れる。ただし、茶色くぬめった花崗岩はその真逆で滑り台のようにつるつるになり、ぬめったスラブ斜面は格好の滑り台となるので、登る際は注意が必要だ。たわしで擦ればぬめりはだいぶ取れるので、テクニカルな斜面でぬめっていれば、たわしでこすることで、ぬめりを取り除くことは有効だと思う。

本谷と鞍掛沢の出合のあたりに幕営地を探したが適当なスペースがなく、鞍掛沢を少し溯上したところに、なんとかチェルトを2張り張れるスペースを見つけ、そこを幕営地とした。ちょうど岩魚が良く釣れるタマズメの時間に入っていたが、食べるには十分な岩魚を釣っていたので、それ以上釣りはせず、倒木をかき集めて、火をおこし、釣った魚を焼いて食べた。



河本会員岩魚釣りの準備



幕営地



焚火

翌日、5時半に起床。朝食を澄まし、テンカラ釣りを再開。朝マズメで魚の活性が良く、毛鉤を投げると興奮してバシャバシャ飛び跳ねたりするのだが、依然として魚はすれており、毛鉤に突っついてくるが、見切られてしまう。お互いになんとか1匹ずつ岩魚を釣ることができ、満足のゆく今シーズンの溪流釣りの竿納めができた。



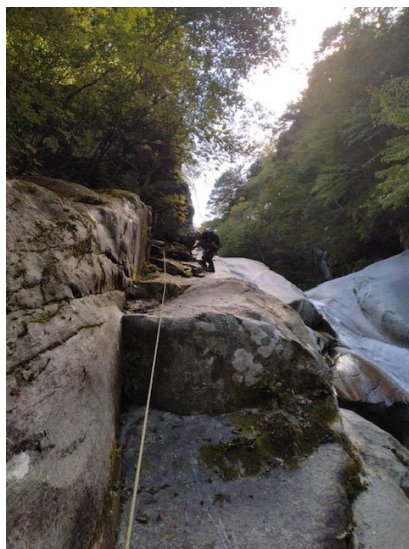
鞍掛沢の標高 1,540 メートル付近で乗越沢の出合があり、そこから 1,930 メートルの鞍掛山北面のコルまで登り詰めた。途中若干ルートファインディングを間違えて時間をロスしたが、無事に駒岩を左手に見てコルに到着。そこから延々と八丁尾根を歩いて日向山の山頂に到着。日向山は、花崗岩が細かく砂状に削られたホワイトビーチが広がる異世界だ。矢立石駐車場もしくは、尾白川駐車場から簡単な登山ができることもあって、平日だったが、山頂にはそこそこの数の登山客はいた。15 時ちょうどに尾白川駐車場に下山。乾いた身体に売店で買って飲んだ、三ツ矢サイダーが身も心も潤してくれた。



林道終点手前入渓地点の滝



倉掛沢中流域の滝 2 日目



大西会員女夫滝 リード



大西会員遡上



日向山